

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2023
MAY

No. 710

Sat. 20th May
Subscription Concert

5



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶 ユベール・スダーン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆ 上田 仁 ◆ 遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

コンサートマスター 小林杏成
グレブ・ニキティン

アシスタント・
コンサートマスター 田尻 順

会 長 澤田秀雄

理事長 岡崎哲也

副理事長 平澤 創

依田 巽

専務理事 阿部武彦 永山 治

池辺晋一郎 夏野 剛

伊藤美樹 南部靖之

大橋 博 福川伸次

庄司 薫 藤原 洋

竹中平蔵 増岡聡一郎

辻 敏

監 事 磯村文靖

寺西基之

評議員長 金山茂人

最高顧問

評議員 梅沢一彦 西村 朗

鷗海量明 星 久人

片山泰輔 山添 茂

加藤英輔

特別顧問 飯島延浩

草壁悟朗

福田紀彦

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 小川敦子
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 水谷有里
- 森岡ゆりあ
- 吉川万理
- 小山あずさ*

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 坂井みどり
- 加藤まな
- 福留史紘
- 阿部真弓
- 河裾あずさ
- 鈴木浩司
- 竹田詩織
- 辻田薫り
- 堀谷しずか
- 渡辺裕子

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西心興
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃

Cellos

- ☆伊藤文嗣
- ☐笹 樹
- 川井真由美
- 内山剛博
- 蟹江慶行●
- 謝名元 民
- 樋口泰世
- 福岡茉莉子

Double Basses

- ☐助川 龍
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- コーディ・
- ローズブーム
- 渡邊淳子

Flute

- 相澤政宏
- 竹山 愛*

Flutes & Piccolos

- 高野成之
- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 絵理子
- 浦脇健太

Oboe & English horn

- 最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

Bassoons

- 福井 蔵
- 福士マリ子
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 加藤智浩
- 阪本正彦
- 清根伸吾

Trumpets

- 佐藤友紀
- 澤田真人
- 野沢岳史●
- 松山 萌

Trombones

- 馬塚心輔
- 大馬直人
- 住川佳祐

Bass Trombone

- 藤井良太

Tuba

- 近藤陽一

Timpani & Percussions

- 清水 太
- 山村雄大
- 岡山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

Librarians

- 林 知也
- 加藤幸子

Stage Managers

- 西岡理佐
- 山本 聡

楽団員

- 井伊 準 ◆

楽団長

- 廣岡克隆

編成局長

- 藤原 真

パーソネル・マネージャー

- 大和田浩明

楽団委員

- 相澤政宏 (議長)
- 清水泰明 (書記)
- 小西心興
- 清水 太
- 藤井良太
- 最上峰行

事務局長

- 辻 敏

事務局

- 市川明都
- 伊藤瑛海
- 小川博司
- 尾木貴雄
- 桐原美砂
- 佐藤雄己
- 高瀬 緑
- 竹内裕子
- 長久保宏太郎
- 山田道子
- ☐梶川純子
- 榎 日向*

名誉団友

- 深江泰輔 ◆
- 三木晴雄

団 友

- 天野佳和
- 新井 汎
- 安藤史子
- 池田 隆
- 石川晴依世
- 今村和弘
- 岩澤淳子
- 上原正二
- 上原規照
- 上原未莉
- 内田彬雄
- 内田乃俐子
- 宇都 実
- 梅田 学
- 大隅雅人
- 大塚正昭
- 大慈康男
- 大和ルイス
- 小川さえ子
- 狭野 昇
- 奥田昌史
- 音川健二
- 加藤谷直美
- ボーマン
- 前田健一郎
- 松崎里絵
- 丸山正昭
- 三浦正信
- 宮原祐子
- 宮本直樹
- 宮本 睦
- 小林照雄
- 小林亮子
- 佐川聖二
- 佐々木真
- 篠崎 隆
- 菅野明彦
- 杉浦直基
- 鈴木一輝
- 芹澤英雄
- 曾根敦子
- 武田英昭
- 田中英輔
- 千村雅信
- 十亀正司
- 豊山 悟
- 中塚和良
- 中塚博則
- 中山 智
- 西依智治
- 西脇秀治
- 野村真澄
- 馬場隆弘
- 原田英保子
- 白野 泰
- ペアンテ
- ボーマン
- 前田健一郎
- 松崎里絵
- 丸山正昭
- 三浦正信
- 宮原祐子
- 宮本直樹
- 宮本 睦
- 小林照雄
- 小林亮子
- 渡辺 功
- 渡辺啓郎

【ハープ寄贈：環境ステーション株式会社】

☆ソロ首席奏者 ●首席奏者 ☐客演首席奏者 ○フォアシュペーラー ●インスペクター

■本部長 □シニア・ディレクター *研究員・準事務局員 ◆故人

**チケットに記載された
座席でご鑑賞ください**

お手持ちのチケットは記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.

**演奏中はお静かに**

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご注意ください。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.

**開演前に携帯電話、時計のアラーム音、
電子機器等の電源はOFF**

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.

**周囲の視界を遮るような
行為はやめましょう**

身を乗り出している鑑賞や、つばの広い帽子や高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。またリズムをとる行為も迷惑になりますのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.

**ホール内での録音・録画・許可のない
写真撮影は禁止です**

Photography, filming and recording are prohibited.

**演奏中の飲食はご遠慮ください**

のど飴等の包み紙を開ける音は場内に響きますので、演奏中の開封はご遠慮ください。

Refrain from eating and drinking during the performance.

**補聴器の確認を**

補聴器をご使用のお客様は、ハウリングの発生を避けるためにきちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.

**開演後の入場を
制限させていただきます**

開演後のご入場は制限させていただきます。途中入場がある場合は、係員の指示に従ってください。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.

**咳、くしゃみをする際は
ハンカチで押さえましょう**

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.

**曲の余韻も演奏のうちです**

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause until the actual end of the performance.

カーテンコールの撮影について

定期演奏会・川崎定期演奏会・東京オペラシティシリーズ・特別演奏会にて終演後のカーテンコールの撮影が可能になりました。撮影は自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

◎前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません ◎フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください

◎SNS等に掲載する際は、ほかのお客様の映り込みにご注意ください

◎スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用はご遠慮ください

新型コロナウイルス感染症対策とお願い**館内はお静かに**

客席、ホワイエ等では十分な間隔を確保し、会話はできるだけお控えください。

咳エチケット

ホール内では不織布等のマスクが推奨されています。マスクを着用されない場合は、会話をお控えいただき、会話やプラボなどのお声がけの際は、着用をお願いいたします。

面会などの中止

出演者の入待ち・出待ちはできません。花束等のプレゼントはお預かりすることができませんのでご了承ください。

体温測定

一部ホールでは、会場入口にて設置・計測いたしますのでご協力をお願いいたします。

平熱と比べて1℃以上の高い発熱がある方は、ご入場をご遠慮いただく場合がございます。

一部サービスの休止

一部ホールではドリンクコーナー／クローカーサービスを休止しております。薬の服用や水分補給のために必要な飲料水（フタ付き飲料）はご持参ください。

※ガイドラインの変更によって内容を随時変更させていただきます。

5/20 SAT.

No. 710

第710回定期演奏会

2023年5月20日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.710

Sat. 20th. May 2023, 18:00 Suntory Hall

ジョナサン・ノット [指揮]

小椋寺 美樹 [ピアノ]

グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

Jonathan Nott, Conductor

Miki Onodera, Piano

Gleb Nikitin, Concertmaster

リゲティ:

ムジカ・リチェルカータ 第2番(3')

G.Ligeti :

Musica Ricercata No.2(3')

マーラー:

交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」(79')

I.アレグロ・エネルジコ・マ・ノン・トロppo

II.スケルツォ

III.アンダンテ・モデラート

IV.フィナーレ:アレグロ・モデラート - アレグロ・エネルジコ

G.Mahler :

Symphony No.6 in A minor "Tragic" (79')

I. Allegro energico, ma non troppo

II. Scherzo

III. Andante moderato

IV. Finale: Allegro moderato - Allegro energico

※本公演には休憩はございません。

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)|独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援/在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル

楽曲解説はP.06をご覧ください



5/20 SAT.



©K.Miura

Jonathan Nott

Conductor

ジョナサン・ノット
[指揮]

Music Director
音楽監督

イギリス生まれ。フランクフルトとヴァースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、EIC音楽監督、バンベルク響首席指揮者を経て、2017年よりスイス・ロマンダ管音楽監督も務めている。抜群のプログラミングセンスと古典から現代曲まで幅広いレパートリーで、世界の主要オーケストラ・音楽祭に客演。

2010年バンベルク響とのCDが、世界で権威ある仏Midem音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009年バイエルン文化賞受賞。2016年バンベルク大聖堂にて大司教より功労勲章を授与。東響とともに2020年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞(オペラ・オーケストラ部門)」、2022年音楽の友誌「コンサート・ベストテン」国内オーケストラ最高位、毎日新聞クラシックナビ「音楽評論家・記者が選ぶコンサート・ベストテン」第1位に選出。

レコーディング活動でも多彩な才能を発揮し、ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、東響とはオクタヴィアレコードより多くのCDをリリースしている。

Among today's renowned and interesting conductors, Jonathan Nott, is probably the most fascinating. His unique talent unites what appear to be irreconcilable opposites, creating deeply emotional yet gratifyingly intellectual interpretations, connecting to his musicians at the very humblest level, and bringing an unusual depth of analysis and spontaneous, heartfelt music-making, both in the symphonic and operatic repertoires, and in the field of contemporary music. In Japan – where he holds a 13-year contract as chief conductor of the Tokyo Symphony Orchestra – he enjoys near Popstar status, due not only to his intense and explosive aura while performing but also to his unusual programming creativity. Unsurprisingly, he has conducted all major orchestras, performed with almost all famous soloists, and enjoys a long list of award-winning multi-channel recordings with TUDOR, SONY, PENTATONE (in 9.1 Auro 3D) and OCTAVIA. His contract as Music and Artistic Director of the Orchestre de la Suisse Romande has recently been extended indefinitely.



Miki Onodera

Piano

小笠寺美樹
 [ピアノ]

東京都立芸術高等学校音楽科、国立音楽大学器楽学科卒業。二期会、藤原歌劇団、文化庁オペラ研修所、国立音楽大学大学院オペラ科伴奏助手など、コレパティトゥアとして研鑽を積む。文化庁在外派遣研修員としてイタリアに留学。ソロ、室内楽、オーケストラ鍵盤奏者としても活躍するほか、数々のオペラセッコチェンバロも務める。現在、新国立劇場オペラ制作音楽スタッフとしてオペラ公演に携わるほか、新国立劇場研修所講師として後進の指導にあたっている。

Born in Tokyo, Miki Onodera studied at Tokyo Metropolitan High School of Arts and graduated from Kunitachi College of Music in Bachelor of Arts. She visited to Italy as a trainee under the overseas study program for upcoming artists of the Agency for Cultural Affairs. Currently, she is involved in opera performances as a music staff for opera production at the New National Theatre, and is also instructing younger generations as a lecturer at the Opera Studio of the New National Theatre.

ジェルジ・リゲティ (1923 ~ 2006)

ムジカ・リチェルカータ 第2番

1953年に書かれた「ムジカ・リチェルカータ」は、リゲティの諸作品のなかでも、いかにもリゲティ「らしい」曲集のひとつ。全11曲からなるが、そのうち第1曲は2音(ラとレ)、第2曲は3音(ファ、ファ#、ソ)、そして第3曲は4音…という具合に1曲ずつ音高が増えてゆき、最終的には第11曲で12の音すべてが使われる。この整然とした構成、そして各曲で導入される奇妙なユーモアは、彼の全作品に通底する特徴といつてよいだろう。

「第2曲」は、先にも述べたようにファ [記譜上はミ#]、ファ#、ソの3音からなる。とはいえ、ほとんどの部分は、半音階を成すファとファ#の2音で出来ており、「ソ」は、いわば飛び道具として使われるというのが基本的なアイデア。曲は冒頭、右手の「ファ/ファ#」の揺らぎが、徐々に両手へと拡がって始まる。そして中盤、大きな休止符の後で、突然にソの音が登場。こうしてあらわれた「ソ」は、出遅れを挽回するかのように、トレモロで執拗に反復される。テーゼとアンチテーゼが提出されたとなれば、あとはジンテーゼへと進むのは必然。果たして、終盤では左手の「ファ-ファ#」という揺らぎに、右手の「ソ」が繰り返されて立体的なクライマックスを作ると、「ソ」をたなびかせながら全曲を閉じる。

さて本日は、この「ソ」が空中に消えたあとに、マーラー「悲劇的」の低い音が響きだすことになるが、一体その効果はいかなるものだろうか？

沼野雄司 Text by Yuji Numano

作曲：1951～53年

初演：1969年11月18日スウェーデン・スツヴァルにて、リーサ・ボホヨラの独奏

編成：独奏ピアノ

5/20 SAT.

グスタフ・マーラー (1860 ~ 1911)

交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」

1904年9月初頭、ヴェルター湖畔マイヤーニツヒの別荘からウィーンに戻ったマーラーは、友人にこう報告した。「第6が完成した——やりきった！」当時ウィーン宮廷歌劇場の監督を務めていたマーラーは、例年通り夏休みを作曲のために費やし、北イタリアはドロミテへの2回の弾丸小旅行をきっかけに、交響曲第6番の終楽章のスケッチを数週間のうちに書き上げた。オーケストレーションを終えた1905年9月、フェルツォ・ブゾーニにベルリンでの出版を勧められた作曲家はこう答えている。「私はこれまでに5つの交響曲を発表しました。第3番を除きベルリンではことごとく失敗してきました。(中略)第6番は非常に難解かつ複雑なのです。」以前にも、「第6番は私の最初の5作品を理解し、消化した世代だけが近づくことのできる謎を問いかける」と述べていたマーラーは、自作の新作をどこで初演すべきか逡巡していた。

第6番の初演の地として選ばれたのは、ルール地方の大都市エッセン。初演に向けての準備を腰を据えて行うには、コンサートを取り巻く状況が目まぐるしく変化する首都ベルリンよりも良いという意図があったことは間違いなからう。111人のオーケストラ団員と7回のリハーサルおよびゲネプロを入念に行った上で、1906年5月27日、第42回ドイツ楽友協会音楽祭の最後を飾る大舞台上で、第6番は作曲家の指揮のもと初演された。この複雑な作品を聴衆が事前に予習できるようにと、初演の1週間前に総譜や4手ピアノ編曲版が出版されるという周到な準備も功を奏し、エッセンの聴衆はマーラーの新しい交響曲を大きな拍手で迎えた。

一方、同年10月8日に行われたベルリン初演での客席の反応は賛否両論、批評も否定的な内容が多くを占めた。作品の音楽言語の複雑さだけでなく、交響曲としては類を見ない大きさの打楽器セクションが生み出す「時に聴き手を襲うような音の波の破壊力」は当時簡単には受け入れ難かったのだろう、のちに打楽器の多さを揶揄した**風刺画**が描かれたほどである。アルマヤリヒャルト・シュトラウスによる「打楽器の交響曲」という非難交じりの指摘も相まって、マーラーも一度はこの交響



1907年のウィーン初演後、週刊誌「ムスケテ」の表紙を飾った風刺画。様々な打楽器を前に、「なんてことだ、警笛を忘れていたとは！これでもた1つ交響曲が書ける」と語るマーラーが描かれている。

曲の編成が過大ではないかと熟慮したが、自身の意図——悲劇という理念——の実現にはこれらの打楽器が必要と考え、編成を縮小することは決してなかった。

エッセン初演にむけたリハーサルの際は、作品に種々の変更が施された。変更内容は多岐にわたるが、その一つが楽章順序である。初版総譜では、中間楽章はスケルツォ、アンダンテの順だったが、初演の直前に緩徐楽章を前倒しし、スケルツォをフィナーレの直前に置くことが決定。中間楽章の順序を巡ってはマーラーの死後長い議論が繰り広げられているが、本公演では初版総譜に準拠し、スケルツォ、アンダンテの順で演奏される。

全4楽章からなる長大な第6番においてとりわけ大きな役割をはたしているのは、冒頭の変奏曲および特徴的な長短調和音の連続である。これらは性格・テーマ・リズムの骨組みとなり、楽曲をつうじて幾度も登場することで、全体を繋ぎ合わせる強固なかすがいとして機能する。こうした明確な音楽要素の対極ともいえるのが、明確な楽音を持たず不規則なリズムで響くカウベルである。ドロミテの牧歌的風景を想起させ、しばし時間が止まっているかのような表現領域へと聴衆を誘うこの楽器が舞台裏に配置されることで、舞台上の楽器との対比による多層的な音空間が生み出される。

終楽章のあまりにも有名なハンマーは、アルマによれば「マーラー自身の破滅、もしくは彼がのちに述べたように、彼の英雄の破滅」を描くものだという。ハンマーの音響効果のみならず、その視覚効果は「圧倒的で運命的なもの」の象徴であると解釈されることも少なくない。イ短調で輝かしい終結をした冒頭楽章とは対照的に、暗黒と絶望に終わる終楽章。この図式は、ベートーヴェン以来の交響曲の伝統であった「苦悩から栄光へ」というドラマトゥルギーを逆転させる挑発的かつ画期的なものとなった。最終的に、イ短調の和音が2人のティンパニ奏者による変奏曲のリズムに支えられて響き渡ることで、作品全体を貫く長短調の和声変化が凝縮されるとともに、マーラーによる交響曲の新たな形が示されるのである。

内藤真帆 Text by Maho Naito

作曲：1903～05年

初演：1906年5月27日、ドイツ、エッセンにて作曲家自身の指揮

編成：ピッコロ1、フルート 4(ピッコロ持替2)、オーボエ 4(イングリッシュホルン持替 2)、イングリッシュホルン1、クラリネット 4(小クラリネット持替 1)、バスクラリネット1、ファゴット 4、コントラファゴット1、ホルン 8、トランペット 6、トロンボーン 4、チューバ1、ティンパニ 2、グロッケンシュピール、カウベル、ムチ、鐘、ルーテ、ハンマー、シロフォン、シンバル、トライアングル、大太鼓、小太鼓、タムタム、ハープ 2、チェレスタ、弦5部

ハンマー四方山話～

打てば響く、叩けば鳴る、当たれば砕く

飯尾洋一（音楽ジャーナリスト）

聴いてびっくりする交響曲。かつてはハイドンの交響曲第94番「驚愕」がその代表作だったのかもしれない。第2楽章で静かに主題をくりかえした後、突然、ティンパニを伴う強奏で「ジャン!」。とても楽しい趣向だが、刺激に慣れすぎた現代人はもうだれもびっくりしない。

ティンパニでは驚かなくても、大型ハンマーなら驚く。第4楽章でハンマーの打撃が2度（または3度）鳴らされるマーラーの交響曲第6番「悲劇的」こそが、現代の「びっくりシンフォニー」かもしれない。ドスンという鈍い衝撃音もさることながら、奏者がハンマーを振りかぶって打ち下ろすという視覚的なインパクトが尋常ではない。「そこで来る」とわかっていても驚いてしまう。ハンマーの音色が演奏ごとにさまざまであることも興味をかきたてる。

オーケストラにハンマーを用いる。マーラーはどこからそんなアイデアを思いついたのだろうか。コンスタンティン・フロロスはその著書『マーラー 交響曲のすべ

て』で、リヒャルト・シュトラウスの交響詩「死と変容」に添えられたアレクサンダー・リッターの詩が着想源だと推定している。「死と変容」は先に音楽が書かれて、後からリッターが詩を書いたという珍しい交響詩だが、そこにこんな一節がある。

そして最後の一撃が鳴り響く
死の鉄槌により
肉体は引き裂かれ
死の夜が目を覆う

なるほど、たしかにここには鉄のハンマーが登場する。だからといって、ハンマーを本当にオーケストラで使おうと思いつくかとなると、ありそうなような、なさそうなような……。

もちろん、マーラーが「悲劇的」でイメージしたのは鉄ではなく木のハンマーだった。「非金属的な鈍い音（斧を下ろすような）」というのが作曲者の指定。これは一種の発明だと思う。だいたい、ハンマーと

いったら、最初に連想するのは鍛冶屋が使うような鉄製のハンマーではないだろうか。しかし鉄製ではあまりに重すぎて、打楽器奏者がひょいと振り上げるわけにはいかないかも。安全管理の面からいっても問題がありそうだ。

オーケストラで最初にハンマーを用いた大作曲家はだれなのだろうか。最初に思いつくのはワーグナーの楽劇「ラインの黄金」だ。ハンマーが鉄床をリズムカルに打ち鳴らす。初演は1869年だが、曲は1854年に書きあげられている。だが、ヴェルディにもハンマーと鉄床が出てくるではないか。歌劇「トロヴァトーレ」の「アンヴィル・コーラス（鍛冶屋の合唱）」だ。こちらは1853年初演。意外と接戦だ。いや、待て待て。この種の趣向が得意そうな作曲家といえば、シュトラウス・ファミリーがいるではないか。ヨーゼフ・シュトラウスの「鍛冶屋のポルカ」でも鉄床が叩かれる。こちらはチン！という気の抜けた音で、マーラー的な世界観からは数万光年隔たっている。作曲は1869年。惜しくもワーグナーやヴェルディの後塵を拝している。

金属音ではなく木のハンマーということであれば、ワーグナーの楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」で、ハンス・ザックスがベックメッサーの歌を採点する場面で叩いているのを思い出す。ともあれ、これらは金属音であれ非金属音であれ、ハンマーをハンマーそのものの表現として使っているのであって、マーラーのような観念的な意味づけは期待されていない。

本当はハンマーにお世話になっているのは、オーケストラよりもピアニストだろう。音楽の世界でハンマーと言われてまさきに思い出されるのは、ピアノの内部で弦を打つ部分のこと。「ハンマークラヴィア」とか「ハンマーフリュエゲル」という呼称にはハンマー感が残っていたが、「ピアノ」と呼んでしまうとやはりハンマー感が薄い。でも内部にはたくさんのハンマーが並んでいる。チェンバロ時代は弦をはじく撥弦楽器だったが、ハンマーが弦を打つ機構が発明されて、鍵盤楽器は打弦楽器に変貌した。ピアノ曲は最初からおしまいまでハンマーの連打がずっと続いているとも言える。

隠されたハンマーもある。ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」だ。冒頭の「ジャジャジャーン！」がそれ。おっと、誤解しないでほしい。シンドラーが言った「運命はこう扉を叩く」という話ではない。扉をハンマーでドンドンと叩いていたらホラー映画である。ピアノ教本でおなじみ、ベートーヴェンの弟子ツェルニーはこの「運命の動機」をキアオジという鳥の鳴き声に由来すると言っている。キアオジは日本にはほぼ生息していないが、ヨーロッパでは一般的な野鳥で、たしかに「ツイツイツイツイ、↓ツイー—」と「運命の動機」みたいにさえずるのだ。気になってあるときキアオジについて調べてみると、こんな記述に出会った。

「キアオジの英名はイエローハンマー。ハンマーで叩くようなリズムで鳴きます」

以来、自分のなかで「運命」はハンマー名曲の仲間入りを果たすことになった。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

ご芳名（敬称略）

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
学校法人創志学園
株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ

ゴールド会員

株式会社あ佳音
株式会社青山メインランド
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
株式会社すかいらーくホールディングス
社会医療法人財団石心会
セントラル短資FX株式会社
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鹸株式会社
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーンパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
本田技研工業株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティスト ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
有限会社青史堂印刷
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
ニッシンエレクトロ株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社



©N/kegami

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
~29,999円

フレンズ3

年額3万円
~49,999円

フレンズ5

年額5万円
~99,999円

サークル10

年額10万円
~249,999円

サークル25

年額25万円
~499,999円

サークル50

年額50万円~

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円~

シルバー

年額30万円~

ゴールド

年額50万円~

ダイヤモンド

年額100万円~

プラチナ

年額1000万円~

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

会員特典	法人会員	サークル会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約*1	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内*2	○	○	○	○	○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分*3について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。*

*但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ **TEL 044-520-1518**

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

東響の新たな扉を叩く若きティンパニスト

山村 雄大

Yudai Yamamura

[首席ティンパニ奏者]2022年10月入団

趣味: テレビゲーム、YouTube観賞、小太鼓収集



©Nikegami

ティンパニに惹かれて

小学5年生の時、学校の器楽合奏の楽器選択で「ティンパニ」の文字を見て、「どんな楽器?やってみたい!」と名乗り出るも、オーディションで落選しリコーダーに。翌年リベンジし、6年生で初めてティンパニを叩きました。中学では吹奏楽部で打楽器を担当。元々運動があまり好きではなかったので吹奏楽部を選びましたが、朝から筋トレ、ランニングなど、想像とは違いハードな部活でした。高校では吹奏楽部の打楽器人数が足りていて「吹いたら音が出たから」という理由でサクソに回されました(笑)。その間も、アンサンブルコンテストなどでは顧問の先生のご好意もありティンパニを叩かせてもらっていました。

地元の工業高校から音楽の道へ

出身は、一面に田んぼが広がる自然豊かな景色が魅力の群馬県安中市。音楽が好きで、よく群馬交響楽団の演奏会を聴きに行っていました。高校2年生の秋に、植松透さん(NHK交響楽団首席ティンパニ)のレッスンを受けている夢を見て「実際にお会いしてみたい」と、有名人に会いに行く感覚で音楽大学のオープンキャンパスに行ったのです。そこで実際にレッスンをしていただき、気が付けば音大を目指していました(笑)。植松さんから「地元でもしっかり先生に習った方が良い」とご紹介いただいたのが、当時群響首席奏者だった清水

太さん(東響首席ティンパニ)でした。元々蒸気機関車が好きで、一般企業への就職を見越して工業高校に通っていたので、突然の進路変更、音楽大学への進学は周囲からとても驚かれました。

初めて東京交響楽団でティンパニを演奏させていただいたのは、大学在学中の2021年5月、マーラーの「巨人」でした。タイミングや音色など、“オーケストラ内でのティンパニ”を学ぶ機会はこれまであまり無かったので、毎回の演奏が探り探りで、今も一から勉強する気持ちでリハーサルに挑んでいます。音量に関わらず、音楽の中できちんと“きこえる”ティンパニを叩くべく、日々練習に励んでいます。



中学3年生の時の吹奏楽コンクールにて。

インタビュー:事務局

NEWS & TOPICS

正 楽 団 員

2023年5月1日付 山村雄大 Yudai Yamamura [首席ティンパニ奏者]

2000年生まれ。12歳より打楽器を始める。2022年国立音楽大学演奏・創作学科弦管打楽器専修(打楽器)卒業。日本打楽器協会主催第5回中高生のためのSoloコンクール小太鼓高校生部の部で最優秀賞(第1位)、第2回GPSスネアドラムコンテスト音大生部門で第2位受賞。在学中に東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団等にティンパニストとして客演。これまでにティンパニ及び打楽器を清水太、堀川正彦、植松透、幸西秀彦の各氏に師事。



©N.Ikegami

2023年5月1日付 林知也 Tomoya Hayashi [ライブラリアン]

新 入 団

2023年5月15日付 榎日向 Hinata Enoki [事務局 フランチャイズ事業本部]

NEXT PROGRAM

6/3 (土) 14:00 東京オペラシティシリーズ 第133回 4 (日) 17:00 新潟定期演奏会 第131回
(土) 14:00 東京オペラシティコンサートホール (日) 17:00 “りゅーとぴあ”コンサートホール

：指揮：井上道義、チェロ：上野通明

：武満徹：3つの映画音楽より 第1曲 映画「ホゼー・トレス」から「訓練と休息の音楽」／第3曲 映画「他人の顔」から「ワルツ」

：井上道義：交響詩「鏡の眼」

：エルガー：チェロ協奏曲 ホ短調

：エルガー：南国にて

[6/3]S¥7,000 A¥6,000 B¥4,000 C¥3,000
[6/4]S¥7,500 A¥6,000 B¥4,500 C¥3,000 D¥2,000



りゅーとぴあチケット専用ダイヤル 025-224-5521 (11:00～19:00 / 休館日除く)

6/24 (土) 18:00 第711回定期演奏会 25 (日) 14:00 川崎定期演奏会 第91回
(土) 18:00 サントリーホール (日) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

：指揮：ミケール・マリオッティ、ピアノ：萩原麻未

：モーツァルト：ピアノ協奏曲 第21番

：シューベルト：交響曲 第8番「ザ・グレート」

[6/24]S¥8,000 A¥6,000 B¥5,000 C¥4,000 P¥2,500
[6/25]S¥8,000 A¥6,000 B¥4,000 C¥3,000 P¥2,500



TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511 (平日10:00～18:00 / 土日祝休)

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に改称し現在に至る。サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行い、文部大臣賞を含む日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。新国立劇場のレギュラーオーケストラを務めるほか、川崎市や新潟市など行政と提携した演奏会やアウトリーチ、「こども定期演奏会」[0歳からのオーケストラ]等教育プログラム、ウィーン楽友協会をはじめとする海外公演も注目されている。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集め、《サロメ(演奏会形式)》は、毎日新聞クラシックナビ「2022年開催公演ベスト10」第1位、音楽の友誌「コンサート・ベストテン2022」で日本のオーケストラとして最高位に選出された。



©T.Tairadate

Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world, and its Salome in Concert Style was selected as the best Japanese Concert in the "Concert Best Ten 2022" by Ongaku no Tomo magazine, and won the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra' s amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 40 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO' s home and Mozart' s Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 78 concerts in 58 cities since 1976. The Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
[TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION]

1か月550円(税込)



Tokyo Symphony Orchestra Monthly Concert Brochure

Symphony

Symphony 2023年(令和5年)5月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミュゼ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト